

(34) 黒瀧神社 (くろたきじんじゃ)

住 所：三重県伊賀市治田4309
TEL：0595-20-1302
参拝日：2015年5月8日

主祭神：天兒屋根命
祭 神：火之加具土命、五男三女神、譽田別尊



石柱と鳥居



手水舎



拝 殿

境内案内板：

黒瀧神社は、寛弘7年(1010)予野・池辺社(現花垣神社)から勧請された。明治の末の合祀令により白檜の岡八幡宮に合祀されていた時代があり、その間旧跡は荒廃したが、終戦直後の昭和21年に還御され、その後徐々に宮構えも造営し、平成22年10月に御鎮座千年を迎えた。

黒瀧の社名の謂れは不詳であるが、社殿背後の樹木が鬱蒼として暗く、苔を生じた宮山に瀧があったとも、また瀧の神霊(龍神)が現れたことによるとも伝えられている。

当社は天兒屋根命を主祭神とする治田地区の産土神として、古来氏子を守り続けてきた、霊験あらたかな春日の社である。

国道25号線脇に石柱垣で囲われた神社ある。右手に黒瀧神社の石柱、左手に手水舎があり、明神造の石の鳥居をくぐると、阿吽の狛犬と石灯籠が迎えてくれる。急な長い石段を上ると、境内に平入造の拝殿と社務所、参箭所が見える。本殿は妻入の流造で屋根には曲線形の千木がのっている。社叢にはアラカシ、フジ、カナメモチ、マメヅタ、スタジイかつブラジイ、サカキ、ヤブツバキ、スギ、オガタマノキ、コウヤマキ、ツブラジイ、ミツバアケビ、サルトリイバラ、ウルシ、ヒサカキ、ネズミモチ、シラカシ、コシアブラ、ヒノキ、ユズリハ、サクラ、ソヨゴ、ツツジ、イソノキ、ウリカエデ、モチツツジ、ナナミノキなどがみられる。

祭 祀：1月1日 歳旦祭、2月18日 祈年祭、3月13日 還御記念祭、6月30日 農林祭、10月18日 例大祭、11月18日 新嘗祭



本 殿



オガタマノキ

由 緒 (三重県神社誌)

当社の創祀については、詳らかでないが、社伝及び『黒瀧神社略縁起』

(神主 豊氏善治勝教 弘化元年9月写) 等によれば、寛弘七年(1010)余野池辺社より現鎮座地へ勧請されたと伝えられている。黒瀧の社名の由来は、社殿背後の鬱蒼たる宮山に、瀧があったことによるとも又、瀧の神霊(竜神)があらわれた事に因るとも言われている。江戸時代には近在の産土神として人々の崇敬を集めていた神社である。明治12年(1879)末社として蛭子社 小社として春日社 八柱社 八幡社愛宕社を境内に奉遷した。しかしながら同41年(1908)神社合祀令により、白檜の岡八幡神社に合祀された。其の後、地区民の熱意により昭和21年(1946)分配が行なわれ元黒瀧神社の旧社地に遷座奉祀され、現在に至っている。

宝物等：石灯籠一基(元禄8年(1695)12月在銘)、
同 一基(宝暦3年(1753)8月在銘)、
同 一基(慶応4年(1868)8月在銘)

特記事項：

分祀遷宮の経緯 氏神の分祀遷宮の声が氏子の中に日増しに高くなり、昭和10年神社旧址の荒廃地を整備し、遥拝所を設置した。昭和12年支那事変の勃発するや、応召者多くなり、武運長久祈願の氏神遥拝所への参詣も頓に増加するに至り参籠所を新築、続いて支離滅裂となっていた灯籠等も集めて、整備への努力が続けられた。終戦後の昭和21年に至り、神殿を造営し永年の非顧であった還御が実現し、その後徐々に宮構えも造営しつつ今日に至っている。